

**令和5年度
学校評価書(学年末)**

愛南町立御荘中学校



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その1

令和5年度学年末(12月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評価(比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合					
												0	50	90			
I よりよく生きる力を育む指導の充実	①	いじめ・不登校防止	いじめ・不登校の防止や解消に向け、早期発見・早期解決できる集団づくりが実践されている。	中間期 A	◇生徒・教職員の肯定評価がともに9割以上となっているため、評定をAとした。教職員の肯定評価が高い点から、組織的な対応を意識するよう変容していることが推測できる。組織的な対応のために情報共有は必要不可欠であり、その点を抑えながら今後も「チーム学校」を意識し、教育活動を推し進めていかなければならない。	生徒2-4	91	29	10	4	90						
			【目標値】 生徒・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆情報を共有しながら組織的な対応を行える体制づくりを継続していく。また、学級担任や学年部等を中心に、生徒の変容に気付き、話し合える環境づくりも大切に、学校生活アンケート等を活用しながら実態把握や個別対応を継続していく。不登校生徒については、必要に応じて専門スタッフや外部の関係機関と連携しながら、個々に応じた関わりを継続していく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・学校生活アンケート ・教育相談による情報											
	②	楽しい学校生活	教師と生徒、生徒同士が「違いを認め合う」人間関係を構築し、楽しく学校生活を送っている。	中間期 A	◇生徒・保護者・教職員の9割以上が肯定評価をしているため、評定をAとした。2学期は、体育祭・文化祭等の学校行事があり、3年生のリーダーを中心に協力し合い、活動に取り組むことができた。生徒は、そこから多くのことを学び、充実感や達成感を実感し、人間関係の構築等につながったことが、高い評価に結びついていると考える。	生徒1-1	75	54	6	0	96						
【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定			学年末 A	◆普段の学校生活の中で、仲間と共に協働することの楽しさを実感させていく。また、各学級・学年だけでなく縦のつながりを意識していくことで、社会性も身に付けさせたい。生徒相互だけでなく、生徒と教職員の人間関係も構築しながら、生徒が目標を持ち、一生懸命頑張ることの楽しさを実感できるよう支援していく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・学校生活アンケート												
③	生徒の主体性を生かす活動	生徒の主体性を生かした、生徒会活動や学校行事が実践されている。	◇生徒・保護者・教職員のすべての数値が中間期より高く、今回も9割以上が肯定評価をしているため、評定をAとした。2学期は、体育祭、文化祭等において学級・学年・ブロック等のリーダーを中心に、生徒が主体となって取り組む場面が多くあった。当日だけでなく、その過程からも多くのことを学ぶことができた。	中間期 A	◇生徒・保護者・教職員のすべての数値が中間期より高く、今回も9割以上が肯定評価をしているため、評定をAとした。2学期は、体育祭、文化祭等において学級・学年・ブロック等のリーダーを中心に、生徒が主体となって取り組む場面が多くあった。当日だけでなく、その過程からも多くのことを学ぶことができた。	生徒1-12	87	42	4	2	96						
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆様々な学校行事や取組について企画会や職員会等で話し合う際に、生徒が主体性を持って取り組めるように配慮する。また、適宜、適切に声掛けや評価を行うことで意欲や課題を持つことができるように気を付ける。今後、生徒会を含め、2年生が学校の中心になるため、先を見据えたリーダーの育成に努め、自ら考えて行動できる生徒を育てられるよう支援する。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・各行事後のアンケート											

【学校運営協議会における意見・提案等】

- ◇ほとんどの生徒が楽しく学校生活を送れているようであるが、数名は楽しくないと感じている生徒がおり、実際に学校に来ることができていない生徒も数人いると聞く。不登校の生徒が増えないように取り組んでほしい。
- ◇不登校の生徒の数は、増加の傾向で原因が多様化していると聞く。大変だとは思いますが、現場の先生方が子供たちのことを一番分かっていると思うので寄り添って話を聞いてやるのが大切である。
- ◇学校に行くことが困難な生徒にとっては、学校以外に行くことができる場所が大切なかもしれない。
- ◆生徒指導上の諸問題の早期把握と早期解決に努めていく。また、現在不登校の状態にある生徒については、多様な学習環境の整備に努めていく。
- ◆不登校生徒については、組織で協力し合って対応している。学級担任だけでなく、生徒指導主事をはじめ養護教諭や不登校等対策非常勤講師も保護者と関係を築きつながっている。また、学校としてできる限りの学びを保証していくとともに、関係諸機関との連携を密にして不登校生徒の居場所を確保していく。



【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評価 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合							
												0	50	90					
II 確かな学力の定着と向上	④	主体的・対話的で深い学び	主体的・対話的で深い学びを目標とした、ねらいを明確にした分かる授業を実践している。	中間期 A	◇生徒9割、教職員10割が肯定的な回答であり、目標値を達成している。保護者も8割以上が肯定的な回答であった。教職員は継続して、ねらいを明確にし、課題設定の仕方を工夫した授業実践を心掛けてきた。特に今年度は「学び合い」を共通実践項目として設定し、研究授業の視点に取り入れることで授業改善につなげることができた。	生徒2-1	51	70	7	7	90								
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	学年末 A	◆今後も生徒が学び合い、考えを練り合って表現力を高めていけるような授業を教師が意識し、授業改善を進めていく。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、生徒が苦手としている根拠を明らかにする力を向上させていく。その手立てとして、生徒の持つ情報量や情報の質を上げるためにEスタを活用したりスピーチ活動を活性化したりといった機会を増やしていく。	保護者2-5	12	42	11	1	82								
					教職員2-1	5	12	0	0	100									
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・研究授業や各種研修への取組													
⑤	主体的な研修・自己研鑽	ICT活用を充実させ、授業内容と家庭学習を関連付け、個別最適な学習指導に努め、基礎的・基本的な事項の定着を図っている。	中間期 A	◇生徒の肯定率9割、教職員の肯定率10割とA評価である。授業におけるICT機器の活用は進んでおり、ほとんどの教科でほぼ毎時間活用ができていく。教職員の肯定率も10割である。生徒たちもクロームブックの操作や情報処理の能力は高まっている。授業の中でクロームブックを活用したドリル学習には意欲的に取り組むことができているが、基礎・基本の定着のために必要な繰り返し学習や復習などの実施に課題がある。	生徒2-3	49	75	10	1	92									
		【目標値】 教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆家庭でクロームブックを使用する生徒が少ないことが課題である。ドリルパークなどクロームブックを使う宿題を出すことで、使用率を上げていく。クロームブックを開く習慣を付け、発展的にICTが活用できる生徒を育てていく。また、情報モラルについては継続して学習を行う必要がある。ICT技術は年々進んでいくため、教職員が研修を積み、的確な指導ができる技量を深めることが大切である。	教職員1-2	3	15	0	0	100									
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・研究授業や各種研修への取組 ・各教科での基礎的・基本的な事項を図る取組													
⑥	家庭学習習慣	主体的な家庭学習の習慣が身に付いている。	中間期 B	◇生徒・保護者ともに肯定率が7割であるため、中間期に引き続きB評価である。学習委員会による集会を通して、生徒の学習意欲の高揚を図ったり、自主学習ノートの個別指導を行ったりしたが、なかなか自主的な学習には結びつかなかったようである。定期テスト等に向けての目標は設定できているが、将来に向けての目標ははっきりしない生徒が多いことが学習意欲が高まらない原因だと考えられる。自主学習ノートへの取組にも個人差が大きくなったように感じる。	生徒1-2	40	55	26	14	70									
		【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定	学年末 B	◆キャリア教育と関連付けて、生徒に目的意識を持って学習に取り組むことを意識させていく。基礎基本の定着を目指して実施する学習トライアルを、主体的な学習を進めるきっかけとしていく。分かる喜びを体験することによって、学ぶ意欲を高め、自学へとつなげていく。	保護者1-3	17	30	15	4	71									
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・家庭学習時間調査 ・自主学習ノートの取組													

【学校運営協議会における意見・提案等】

◇クロームブックなどのICT機器の活用に努め、情報活用能力の更なる向上に取り組んでいることは素晴らしい。家庭学習の習慣化については、家庭との連携が必要である。また、生徒自身の学習意欲をどのように伸ばすのかということが大切なのではないだろうか。

◇現代の子供たちは様々な誘惑があって勉強する時間を作ることができていないのではないかと。また、親も忙しく家族がそれぞれ向いている方向が違うのではないかと。

◆これからの教育は、ICTを使ったデジタル教育とこれまで培ってきたアナログ教育を上手に融合させていかないといけないと考えている。生徒の学習意欲を高めるためには、学習の必要性を感じさせる必要がある。そのためにキャリア教育を充実させ、自分の将来について考えることができる生徒を育てていく。

◆確かに現代の子供たちはいろいろな誘惑がある。家庭でルールを決め、実行していく必要がある。学校としては、このような家族の絆を築けるように支援していく。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その3

令和5年度学年末(12月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評価 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合									
												0	50	90							
Ⅲ 心の教育の推進	⑦	中気持のよい挨拶 小学生らしいよい挨拶	時と場に応じた気持ちのよい挨拶ができ、自分の意志で行動できる生徒が育っている。	中間期 A	◇生徒・教職員・地域において肯定的な評価が9割を超えており、また保護者でも目標を達成しているため、A評価とした。校外に関わらず、生徒自身が挨拶をすることを習慣化できていると考える。生徒と教員間だけでなく、生徒同士や学校行事で関わる地域の方との挨拶に、3年生が率先してよりよい姿を見せてくれていることで後輩のよりよい挨拶が習慣化することに大きく関わっているように感じる。	生徒1-7	78	55	2	0	99										
			【目標値】 教職員・生徒・保護者・地域の8割以上が肯定	学年末 A	◆保護者の肯定的な割合が他の割合と異なるのは、家庭での挨拶の様子に関係していると考え。家庭内での挨拶や言動について考えさせ、よりよい姿勢に改めていくことが大切だと考える。また、生徒について肯定的な回答がほとんどだが、時と場に応じた挨拶や行動をよりよくしていこうとする気持ちを持ち続けるよう意識付けができるように、学校生活の中で指導していきたい。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の様子 ・生徒の挨拶運動の状況															
	⑧	人権尊重・心の通い合い	価値観の違いを認め合い、互いの人権を尊重した学校づくりがなされている。	中間期 A	◇生徒・保護者ともに肯定率が8割を超えているため、A評価とした。今学期は、体育祭や文化祭、スパルタスロン等の行事を通して、3年生の立派な姿を模範として共に認め合う活動ができた。また、人権委員会と生徒会執行部によるいじめ対策委員会での情報共有や学校生活アンケートを生かした人権学習等に加えて、人権作文の発表や車いすバスケの体験、介護やASDについての学習等様々な学習の場があったことで、人権意識の向上につながったと考えられる。	生徒1-11	55	63	16	0	88										
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定	学年末 A	◇今後も、生徒理解を深めるとともに、人権学習の充実や学校行事等を通じた学級や学年での望ましい人間関係作りを大切に、学校全体でそれぞれが認め合い、感謝し合い、尊重される環境・雰囲気づくりに努めていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常生活の状況 ・学校生活アンケートの結果 ・いじめ対策委員会を通じての情報															
⑨		道徳教育の充実	対話を重視した道徳科の授業を通して、人間としての生き方についての考えを深めるとともに、道徳的な態度や実践意欲が育てられている。	中間期 A	◇生徒・教職員ともに肯定評価が8割を超えているため、A評価とした。2学期は学校行事が多く、生徒たちは、学年を超えた生徒同士の関りの中で成長を感じることができたためだと考える。また、差別をなくす強調月間中の道徳科の授業を通して、人間としての生き方について真剣に考えることができ、自分の考えを発表したり、友達の意見を受け入れたりしながら、「考え・議論する道徳」の授業が進められた。	生徒2-6	80	46	5	2	95										
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	学年末 A	◆生徒が道徳科の授業の中で、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自分の生き方について考える学習を通して、道徳的価値を実現するための問題を把握したり、適切な行為を主体的に選択・実践したりできるような資質や能力を育てる学習を進めていく必要があると考える。また、今後は更に思考ツールやICTを活用し、授業内容や授業展開を工夫していきたい。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の言動や変容															

【学校運営協議会における意見・提案等】

◇挨拶に関しては、昨年度に比べてとても大きな声で朝から気持ちのよい挨拶をしてくれている。今年度は、登下校ともに元気な生徒が多いと感じる。人権教育については、自分とは違う価値観を認めるようになる過程では、多少の軋轢はあっても仕方ないと思う。ただ、見守りを行い間違った方向へ行かないように導いてあげてほしい。また、他者に優しくなるためには、自分自身に余裕がないと難しい。心の余裕を持って学校生活を送ってほしい。

◆3年生を中心に、大きな声であいさつをすることができている。1、2年生が、3年生を模範として継続実践できるように支援していく。そのためには、生徒会執行部を中心にリーダーシップを醸成していく必要がある。これからは多様化の時代である。そのためにも多様性を受け入れることができる生徒を育てられるよう尽力する。生徒も教員も仲間を信頼し合い、寛容さを大切にし、温かい学校社会を築いていく。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その5

令和5年度学年末(12月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合							
												0	50	90					
V 家庭や地域とともにある学校づくり	⑬	地域とつながる教育	「人」や「仕事」など、地域とのつながりを生かした教育活動に工夫して取り組んでいる。	中間期 A	◇教職員の肯定率が100%、地域の肯定率が97%と、共に9割を超えたので、評定をAとした。総合的な学習の取組として、造形の日の活動や、職場体験学習、講演会等を実施できたことが目標値の達成に繋がったと考える。今年度は、地域コーディネーターの活躍により、職場体験参加事業数や、造形の日の講座数を増やすことができた。また、生徒会役員が地域行事にボランティアとして参加した。地域の方々との幅広い交流や多様な体験を通して、地域のよさを実感することができた。	教職員4-2	10	8	0	0	100								
			【目標値】 教職員・地域の8割以上が肯定	学年末 A	◇教職員・地域ともに目標値を達成し、高い成果を得ることができた。地域コーディネーターが地域と学校をつないでくれ、地域と学校が連携した活動を行うことができていた。地域の方や職業の専門の方から直接話を聞くことで、生徒たちの興味関心を高めたり、愛南町への郷土愛を育んだりすることができたと考えられる。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・体験学習後の生徒の感想等													
	⑭	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実が図られ、関係機関との連携を図った教育的ニーズ対応した教育が実践されている。	中間期 A	◇保護者、教職員の肯定率が8割を超えており、A評価とした。特別支援学級に在籍する生徒に対し、担任、支援員がその特性をよく理解し、安心して活動できる環境づくりを行った。また、その情報を職員が共有し、適切な向き合い方を知り、指導、支援を行うことができた。生徒たちも、どの学年においても温かく学び合う雰囲気浸透していた。普通学級に在籍する特別な支援を必要とする生徒に対しても学年部を中心にその学習状況を把握しながら課題などへの配慮を行った。	保護者2-7	19	42	5	0	92								
			【目標値】 保護者・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆保護者の「評価」の割合が高いこと、また「評価2」の方が複数いることが課題である。学校での取組についての理解を深めていくために、HPや御荘中通信、各種「たより」の中に、情報を織り交ぜていきたい。また、関係機関との連携を増やし、学校内の情報だけでなく、関係機関に関する情報も発信していきたい。	教職員5-1	9	8	1	0	94								
	⑮	開かれた学校づくり	保護者や地域の意見・願いを幅広く聞くとともに、学校の取組や生徒の様子を積極的に公開するなどして、学校運営協議会の協力の下、家庭・地域と連携した開かれた学校づくりに努めている。	中間期 A	◇保護者・地域に向けた情報発信に努めることができていた。学校ホームページの閲覧率は、目標値の達成をすることがほぼできていた。閲覧者数が非常に高いときもあり、家庭だけでなく、様々な人に見てもらえることができたと考えられる。 ◇地域からの肯定的な意見が100%であるのは、日々の大きな成果である。 ◇生徒や学級にばらつきがないように、まんべんなく掲載することに努められた。	保護者2-9	35	28	3	0	95								
			【目標値】 ホームページ、各種たよりの保護者の閲覧率が8割以上	学年末 A	◆今後も継続した情報公開に努めていく。また、掲載する生徒や学級にばらつきがないように配慮をしていく。また地域に開かれた学校を目指して新たな取組を実践していく必要がある。	地域2-3	22	14	0	0	100								
〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・地域との連携の状況																			

【学校運営協議会における意見・提案等】

◇3年生の職場体験学習では、46事業所全てから事後アンケートをいただき、肯定的評価をいただいた。一人一事業所での体験ができ、地域で生徒を支援していただいていると感じた。造形の日の活動においては、昨年度より多くの方に講座を開いていただいた。また、HPやマチコミを通して、学校生活や生徒の活躍をタイムリーに発信しているので、学校の様子がよく分かる。教育的ニーズに対応した教育については、先生方もよく配属され地域としても有り難く思う。今後もさらに一人一人に合ったきめ細やかな対応をお願いしたい。
◆職場体験学習では、本当に地域に支援していただいているということを実感し感謝している。情報の発信については、積極的に継続実践していきたい。教育的ニーズの対応については、ICT教育を含め、多様な教育環境を整備していきたい。また、今年度は地域のボランティアに延べ140人の生徒が参加し、地域に貢献できた。来年度は、部活動の地域移行や学校行事の持ち方など課題がたくさんあるが、更に地域に開かれた学校を目指して、地域の方々とのかかわりを深めることができるような取組を拡充していく。